

会 議 録

会議の名称	第3回豊中市伊丹市クリーンランド余熱利用の基本方針策定委員会		
開催日時	平成25年(2013年)12月19日(木) 午後2時00分～4時20分		
開催場所	豊中市伊丹市クリーンランド 2階大会議室	公開の可否	可
事務局	豊中市伊丹市クリーンランド 総務室 企画チーム	傍聴者数	2人
公開しなかった理由	/		
出席者	委員	高浪会長、長澤委員、早川委員、石橋委員、奥田委員、廣田委員、宮脇委員、飯島委員、伊庭委員、西村委員	
	事務局	西垣事務局長、田村事務局次長、小菌保全操作室長、和田企画チーム長、大槻操作チーム長、津川新炉建設チーム長、赤松新炉建設チーム主幹、加藤企画チーム主査、田辺企画チーム主査、笠井企画チーム主事	
	その他		
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 余熱利用施設への蒸気及び電気の供給可能量(新ごみ焼却施設) (2) 余熱利用施設(クリーンスポーツランド)の運営に関する確認事項 <ul style="list-style-type: none"> ・煙突からの水蒸気について 3. 審議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 余熱利用に関する動向調査について(中間報告) (2) 余熱利用施設(クリーンスポーツランド)の運営の総括について 4. その他 5. 閉会 		
審議議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

事務局

定刻になりましたので、ただ今より、第3回豊中市伊丹市クリーンランド余熱利用の基本方針策定委員会を開催させていただきます。皆様には大変ご多用の中、本委員会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

はじめに、本日の配付資料の確認をさせていただきます。

(配付資料の確認、進行に当たっての注意事項)

会長

改めまして、皆様こんにちは。本日はお忙しい中、また寒い中、本会議にご出席をいただきましてありがとうございます。本日は2名の方が傍聴されております。傍聴された方につきましては、本会議の傍聴要領に従っていただきたいと思います。資料につきましてはお持ち帰りできません。また、資料と本会議の内容につきましては、1カ月後を目途に議事録が公開されますので、またご確認していただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、これから第3回の議論に入っていきたいと思いますが、その前にこれまでの内容を確認したいと思いますので、スケジュールをご覧いただければと思います。

第1回の会議では、クリーンランドがどのような施設であるかを見学しました。それから市長さんから「新たに建設されるごみ処理施設の完成後の余熱利用について考えてほしい」ということで諮問を受けました。それを受けて、第2回では余熱利用及び地域還元施策に関するアンケートの実施について議論をいただき、アンケートを実施している状況です。また、現在休館しているクリーンスポーツランドの運営について事務局から報告を受け、皆様からご感想をいただきました。現在、アンケートについては回答を待っている状態です。今回は中間報告をしていただくことになっています。今回行っているアンケートが全部出そろい、その結果をまとめますと、日本国内における余熱利用及び地域還元施策に関する動向を知ることができるので、本会議でご議論いただくうえでの重要な資料になると思っています。

それと、クリーンスポーツランドの運営については、前回ご意見いただいた内容を踏まえ、資料を追加してもらっています。それについて、事務局から説明していただき、皆様に確認していただきます。そのうえで再度、クリーンスポーツランド全体に関するご意見をお伺いしたいと思っています。その後、その意見を踏まえまして、最終的なクリーンスポーツランドのまとめとして、資料作成及び次年度に最終的に答申する時に、その内容を評価として盛り込んでいきたいと思っていますので、この第3回としては、アンケートの中間報告とクリーンスポーツランドの運営の2点についてご審議いただくこととなります。活発なご意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に基づいて進めていきたいと思っています。次第2の報告です。「余熱利用施設への蒸気及び電気の供給可能量」について、新ごみ焼却施設に関する計画値を提示してもらっていますので、説明をよろしくお願いいたします。

事務局 (資料－１の説明)

会長 ただ今の事務局の説明について、質問等ございますか。

委員 売電と書いていますが、金額として、およそ年間どのくらいですか。

事務局 この数値からいくと、約３億円近くになるかと思っています。契約単価にもよりますので、状況がどのくらい変わるかが定かではありません。

会長 他にございますか。

委員 今、説明をいただいたのは、新ごみ焼却施設の計画値ですよ。前回の会議では平成 24 年度ベースの数値を示してもらい、会長から次の計画の図も示してくださいと言われてきたような気がしますし、その一方で、平成 24 年度実績で水蒸気としてどうなのかという話もありました。私としては、平成 24 年度のフロー図の修正が提示されるのかなと理解していたのですが、私の思い違いかもしれませんが、いかがですか。

会長 水蒸気量は資料－２に示しており、次の報告となります。資料－１の報告は、蒸気がどのくらい発生しているのかということ、新しいごみ焼却施設ではまた数値が変わってしまうので、現時点で予測される蒸気発生量と、それを電気に換えたときにどれだけの電力量になるかということ、現ごみ焼却施設と新ごみ焼却施設の比較として示しているのだと思います。前回の資料がある方はご覧いただければと思いますが、現ごみ焼却施設、新ごみ焼却施設ともに、ごみの焼却によって発生する蒸気量はさほど変わりませんが、新ごみ焼却施設では新しい発電タービンを設置することによって発電量が増えます。それに伴い売電量も増えていきます。そのようなことが大きな違いだと思います。

委員 同じような図に修正したものが改めて配られるのであろうと理解していましたが、そうではなくて、それに変わる図が資料になっていたということですね。

会長 そうですね。また、施設のフロー図で説明があると思いますが、煙突から出てくる水蒸気というのは、発電タービンと蒸気のフローが異なるので、そこを説明いただければ資料－１の内容がわかってくるのではないかと思いますので、資料－２を説明してもらってから、両方についてご意見があればということにしたいと思います。

事務局 (資料－２の説明)

会長 図にありますように、基本のごみ焼却施設での発電というのは、通常の電力

会社が行っている火力発電と同じシステムになっているわけです。火を焚いて、そこから出てくる排ガスのラインではなく、ボイラの配管、水が流れている配管のところで熱を吸収して、その熱が蒸気になって、それでタービンを回していきます。そのように直接使っているわけではありません。実質的には水を沸かして発電していく、そういうラインですので、資料－１は、二次的なラインを使用しているところで発生しているエネルギーを使い、発電しています。資料－２は、それとは別に、実際にごみから発生している気体を冷却するとき、またはごみ中に持っている水分というのが排ガスとしてどれだけ出ているかというような構成で数値化しているわけです。何かこれでご質問がありますか。

委員 これは前回、私が質問させていただきました。今の説明でよくわかりました。全体の蒸気発生量があり、当初はこのうちのロスの方ではないのかと思いました。いわゆる煙突から蒸気が出ていると。今の説明で全く別のサイクルだとわかりました。全体の蒸気発生量のうち、ロス分はないのですか。水道でも何でもたいがいロスというものがあるのですが。この図だと発生したものがすべて有効に利用されているようになっていますが、そのあたりはどうでしょうか。

事務局 大変難しい質問になるのですが、この図のとおり、蒸気についてはすべて有効に利用しています。この蒸気利用というものにつきましては、本来、純水を使っています。蒸気は、当然冷えればまた水に戻ります。このようなことで、これは常に循環させています。ですから外に放出することは、一部ドレン化して排出する部分がありますが、概ねすべてを循環利用しています。ロスというと、徐々に温度が下がっていく利用形態の中で、熱利用のロスは生じています。そのようにご理解いただければと思います。

会長 ごみを焼却した熱が 100%水蒸気になっているわけではありませんので、交換率というところでロスがあります。そのあと蒸気をタービンで回したときにエネルギー転換ロスも発生しますが、これは原理的には火力発電所と全く変わりませんので、一般的な損失と考えていただければと思います。他にご質問はございますか。

委員 資料－２の図について、ボイラの下に燃滓^{ねんさい}冷却水槽というのがありますが、この水はなくなったり蒸気になったりしているのですか。

事務局 この図は難しい形になっていますが、今おっしゃっている燃滓冷却水槽というのは、この焼却炉、ストーカと書いてあると思いますが、ここは火格子状態ですき間が空いています。このすき間から灰が下に落ちて、その灰を冷やすのが燃滓冷却水槽です。一部灰ピットに矢印で灰が搬出されるというような形態です。そして燃滓冷却水槽というのは、この図ではわかりにくいのですが、実質的には密封状態というか、ストーカと書かれて矢印が青く斜めになっているところがあり

ますが、その部分と冷却水槽とは完全にくっついています。空気がここから入らないようにしている状況です。ここにすき間が開いていると下から冷たい空気が入ってしまうので、本来は「水封」と我々は言っていますが、くっついている状態で灰を落としていることになっています。この図では説明が難しいのですが、詳しい内容は次回にでもご説明できるような図面等を用意したいと思います。

会長 他にございますか。

委員 資料－1について質問したいのですが、計画値で点線に囲まれている部分がありまして、蒸気タービン発電機から場外利用・場内利用の二つがあります。ここで書かれた計画値を使ってどういう使い道があるか、こういう決まった値を想定して今後議論していくと考えたらよろしいですか。それとも使うものに応じて売電を減らして場外利用をもっと増やすなど、そういったところを考えていくのかをお聞きしたい。

もう一点、場外利用先のところで、前回の平成24年度実績の資料と比較すると、リサイクルプラザの蒸気使用量が600トンだったのですが、この計画値では1,500トンとかなり増えています。使い道がすでに決まっているのかという点を教えていただければと思います。

事務局 資料－1の数値は、余熱利用施設が当初この計画の時には運営中であると考えていた中で落とし込んでいます。その利用形態が今後検討される中で、実態的にこの利用可能量の範疇に収まるか収まらないかわかりませんが、この概ねの数値の中で対応ができるのではないかと考えています。

それと、リサイクルプラザでは少し数字が異なるということですが、計画値の段階で出された数字とご理解いただければと思います。

会長 この計画値というのは、質問にあった最大のキャパシティになっているということでもいいのですか。

事務局 そのとおりです。

会長 前回の平成24年度の実績というのはあくまでも実績ですので、最大ではありません。実際に使われていたのは計画値の半分以下ということで理解すればいいのではないかと思います。今配っている資料－1の計画値というのは最大量ですので、実際に蒸気を出せるのは、年間1,500トンのうち、リサイクルプラザとして昨年度に使用したのは600トンだったという理解でいいと思います。今後も増える可能性があるので、このキャパシティを持っておきましょう、ということだろうと思います。

また、余熱利用施設の利用可能量というのはこのように書いてありますので、それに合わせて場外利用が年間2,900トン出せるように配管してある、計画して

いるというように理解していただければと思います。ですからこれ以上のものは施設の難しいと思いますが、そのあたりで計画していかなければいけないと思います。

他にございますか。

委員 同じ点線で、場内等利用、蒸気タービン発電機のところから上に伸びる点線もあるのですが、42,400 トン、これはこの委員会で検討するエネルギーとは別ということで考えてよろしいですか。

会長 これは施設内での機械を動かすために使う蒸気で、今回の議論にはならないということでご理解いただければと思います。

他にありますか。

それでは、ご意見がなければ審議に移っていきたいと思います。審議は二つありまして、余熱利用及び余熱利用施設・地域還元施設に関する動向調査がまず先にありますので、こちらから説明いただきたいと思います。

事務局 (資料-3の説明)

会長 今回は、6割くらいの回答をいただいたもののうち100施設を資料-3-1に、その中で利用形態としてわかりやすかったものを、事例三つということで資料-3-2にまとめてくれています。資料-3-1の表ですが、都道府県・団体名、ごみ焼却施設以外で施設があるのか、その利用形態・種類・規模が書いてあります。あとは事業収支ですが、ここは必ず入れてくださいと私がリクエストしたのですが、これは下の「注」のところに書いていますが、事業収支が全体でプラスであれば「マル」、マイナスであれば「バツ」と示しています。「※2」は収入のところに補助金が入っているかいないかが書いてあり、補助金があれば「マル」、なければ「バツ」にしています。理想的には左が「マル」、右が「バツ」なので、「マル・バツ」となっているところが自己収益で回しているということになります。

今回は時間も限られていますので、得られた結果についてご意見をいただくのは次回にさせていただきたいと思っています。今回の議論としては「このようなまとめ方でいいですか」ということです。アンケートは8割方戻ってきているところで、次回にはデータがそろうことになります。この資料-3-1、資料-3-2、あとはグラフを入れた統計資料を提示してもらいますが、そのような資料で皆様が理解していただけるかどうか。例えば、資料-3-1の表にこれは足していただいたほうが判断しやすいとか、見やすいですよといったことをご提案していただきたい。あとは、資料-3-2の抜粋事例ですが、私にご一任いただき、私と事務局で抜粋をしたいと思っています。抜粋したデータのまとめ方ですが、一つの施設でA3に1枚でまとめるという感じにしていますが、このような感じでのいいか、またはこの中でもっと書き加えたほうがいいのか、そのあたりをご意見

いただいて、次回にまとめて皆様にご提示できるようにしたいと思っています。
それでは、ご意見、ご質問等ございますか。

委員 資料-3-1の表ですが、管理体制や経営体制、公がやっているのか民間がやっているのか、全面委託なのか指定管理者なのか、そのあたりを入れていただきたいと思います。

会長 運営形態も入れるようにしましょう。他にございますか。

委員 事業収支がマイナスの施設はどうしてマイナスなのか、その原因がわかればと思います。

会長 赤字の分だけ別途資料を作りましょうか。

委員 そうですね。どういう原因でこのようになったのか、いろいろとわかるのではと思いますので、そのあたりを少し知りたいと思います。

会長 わかりました。では、赤字は別途抜粋することにします。他にございますか。

委員 施設については使用料を入れたほうがよいのではないのでしょうか。収支の関係で料金が高いかがわかると思いますが。

会長 大人の料金だけでよいですか、全部入れると多くなりますので。他にございますか。

委員 収支のよいところを提示していただいたらと思います。

会長 収支のいいところは、ここにご紹介した資料-3-2に入ると思います。赤字の分は、その理由などは書けないので、それは別途資料として作るとして、収支がよくて施設がよさそうなところは資料-3-2のところに入れ込むものと考えています。他にございますか。

委員 これですと立地場所からどうなのかがわからないため、不便なので収支が悪い、といったことがわかるようにしてもらいたいと思います。

会長 それは統計資料でわかると思いますので、そちらに反映したいと思います。

委員 統計資料というのはどのようなものですか。

会長 アンケートの選択式の項目については統計処理ができます。単純集計です。自

由回答についてはこちらでカテゴライズして、同じような回答集で分けてもらい、なるべくグラフ化したいと思っています。今回の質問が50近くありますが、これについてはすべて統計資料になると思います。

委員 グラフとか表をつけるということですか。

会長 そのとおりです。資料が分厚くならない程度に調整はさせていただきますが。

委員 資料-3-2にあたると思いますが、抜粋するものの中で人口規模であるとか地域的なもの、豊中市とある程度属性等が似ているような切り口でデータを集めてみるとか、そういったことを検討していただければと思います。

会長 わかりました。あとは、ここから行けそうな所をピックアップしてもらうこととして、もし予算がつけば次年度に視察にでも行きたいと思っていますので、同じ規模とか、このあたりに、近くでという所で別途抜粋してもらおうと思っています。他にございますか。

委員 収支のところに「マル」「サンカク」がありますが、金額の規模や歳出歳入などの具体的な数値を示してもよいのではないかと思います。人口なども具体的な数値の情報があると、判断できるのではないかと思います。

もう一点、これらのアンケートの中で際立つコメントがあると思うので、ひとことで特色というものがどこかにあってもよいのではないかと思います。

会長 わかりました。備考欄等になるべく書き込めるようにしていきたいと思っています。他にございますか。

ご意見をいただいているのは、この施設のように赤字のみピックアップしたものの、まずそれは作った方がよいと思います。資料-3-2では同様な規模でできそうなものを、または近隣にあるものを中心に示していただきたいと考えています。資料-3-1は、運営形態・利用料金、あと事業収支の数値等の見える化にしたいと考えています。あとは主に特出的なものは入れたいと思います。他にございますか。

委員 追加したらよいと思うのは、資料-1のところに今後使う蒸気量の推定がありましたので、蒸気の使用量が何トンぐらいか、電気の使用量が何キロワットなのか、これも数値があると、ここが似ているなど判断しやすいと思います。

会長 わかりました。今回提示されているものは地域還元施設の資料になります。実際に余熱利用全般において、アンケートの前半部分で、どういった余熱利用をしていますか、というのは統計資料でまとめますが、それと地域還元施設とをリンクさせるかどうかというところですか。作業量が多くなってしまいますが、お願い

してみます。

事務局 リンクさせていただきます。

会長 こちらの資料－３－１の表に入れるところをもう少しわかりやすくするように検討していきたいと思います。はじめに説明がなくて申し訳なかったのですが、今主にしてしているのは地域還元施設です。それをわかりやすくなるような資料として、資料－３－１、資料－３－２になっていくと思います。

この会議自体は余熱利用に関する委員会ですので、大きくは、出てくる余熱をどうのように利用するかというのをまず提示する、それに付随して余熱を使う地域還元施設をどうしたらよいのかというのを考えるといった大きく分けて二つの機能が話題となっているので、アンケート自体も、そのまとめ方についても大きく二つに分かれますが、その余熱利用に関しては結構データで出てくるものですから、こういった紹介ではなくグラフで示します。それがまず統計的なアンケート結果の資料になっていきます。それをこちらでどのようにするかは事務局と相談しますが、その余熱利用という形態だけで一つの資料として抜粋してまとめるかどうか。それが見やすいというのであれば、そのようにしたいと思います。

とりあえずは今皆様に見ていただいている地域還元施設に関するアンケート結果のまとめ方ということになります。ご議論いただいたのは余熱利用全体に関する結果のまとめ方をどのようにしたらよいのかですが、そちらに関しては皆様にわかりやすくしたほうがよいと思いますので、アンケート全体の結果は別途ということで、余熱利用形態がわかるような資料を作ってもらいます。どのようにしたら皆様にご理解いただけるようなまとめ方になるかにつきましては、ご一任いただきたいと思います。

委員 資料－３－１で、欄が増えるのですが、運営開始年だけでも入れていただければと思います。運営開始当初は人がたくさん来るので。

会長 わかりました。なるべくご意向に沿いたしたいと思います。

委員 余熱利用施設はプールが多いですね。資料－３－２の事例を見ても変わらない。何が違うのかと思いました。例えば交通の便がやはり発達しているとか、料金設定が600円とか金額的な面がやはり同意されやすいのか、そんなことがあるのですかね。そんなに減っていないですね。

会長 資料－３－１の表ですと18番になりますが、補助金なしで経営がちゃんと回っています。理想的ですね。ここにパンフレットの写真をそのまま載せています。大方の団体はパンフレットを送っていただいていますので、どういった施設なのか、収益が出そうな施設で充実しているのか、パンフレットを見ていただいたらわかるのではないかと思います。よい事例のパンフレットは次回に回覧できるよ

うにしますので、ぜひ検討していただけたらと思います。

委員 うちの孫が、ここに温水プールがありますが、月1回くらい、どこのプールに行くのかと思ったら隣の専門の施設に行っています。何が違うのかがわかりません。わざわざ遠いのにそこまで行って、でも、そこの方がおもしろい、楽しいとのことです。事例の茨城県のプールは、すごくオープンでよい感じがします。そういうものがないのかなと思ったりしています。それと、交通の便もよく、駐車台数が207台というのはすごいですね、行きやすいというか。そういう何かちょっとしたことで、ひょっとしたら、人気というかがあるのではないかと思います。

委員 これを見ましたら、利用者の満足度、利用者からの意見等、全くアンケートを取っていないところもあると思うのですが、そういうことを日頃されているかどうかというのも、例えば黒字に、赤字になるというところで非常に大事なところではないかと思います。そういうようなところを少し書いていただければと思います。

会長 アンケートを実施していたかどうかですね。入れるようにいたします。他にございますか。

 そろそろ審議1は終わりにさせていただきたいと思います。よろしければ、今回ご意見をいただいた内容で最終版の作成をさせていただきたいと思います。

 それでは、次の議論に行く前に5分程度の休憩とします。

 (5分休憩)

会長 それでは審議事項の二つ目、クリーンスポーツランドのまとめに入りたいと思います。

 はじめにも申しましたように、まず追加された資料の内容を事務局から説明いただいて、そのあと改めて皆様からご意見をいただき、いただいたご意見をクリーンスポーツランドに対する評価ということにさせていただきたいと思います。

事務局 (資料-4の説明)

会長 まずはこの資料について、質問がある方はいらっしゃいますか。

委員 資料31ページの表3-1-1で、平成24年度実績の収入合計が57,413千円となっています。ところが26ページの収支の推移表2-3-3をみると、平成24年度で64,969千円となっていますが、この差は何かあるのですか。

事務局 こちらの差額につきましては、余熱利用施設の歳入といいますのは利用者から

の利用料金以外にも、例えば自動販売機を置いており、その設置使用料でありますとか、電気代を実費でいただくとかいった歳入がございまして、差額につきましてはその金額となっています。

会長 他にございますか。

委員 人数で質問したいのですが、22 ページの表 2-3-1 で、大人が 57,722 人、平成 24 年度の数でこれを使われていますが、高齢者が 16,000 人ぐらいで、障害者がいて、他の 3 つを全部足すと 75,000 人ぐらいになると思うのですが、25 ページの表 2-3-3 の平成 24 年度実績で、水色の背景のところの購入利用回数の大人の合計が 67,897 人となっています。これだと無料で入っている利用者がいるのかなと読めるのですが、その考え方を教えてください。

事務局 22 ページは、平成 24 年度の実績といたしまして合計で 105,000 人です。これは実際の利用者数です。それに対しまして 25 ページは、以前この委員会で、割引等がどれくらいで、どれくらいの割合でどんな方に割引しているのかという話がありましたので今回追加しました表になりますが、こちらは昨年度の間に売った数です。例えば、一般大人で 1 回利用券を売ったり、定期であれば、年定期で 120 回となっておりますように、1 回売れば 120 回利用するという形で計上している表になっていますので、そもそも異なります。それに加えて、平成 24 年度につきましては、休館ということが決まった段階で、それ以降、定期や回数券を販売していないという事情がありますし、差として大きいのは、平成 23 年度以前に定期券や大口の回数券を購入したお客様は平成 24 年度の購入がなく、実質無料で来られている状態になっていますので、数字に大きな差が出ていると考えています。

会長 年度をまたいでいることになっているわけですね。

他にございますか。ご質問は以上にさせていただいて、ご感想を改めてお一人ずつ伺いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは長澤委員からお願いします。

委員 ご報告を聞かせていただきまして、率直な意見ですが、また同様の施設を導入するとなると、よほどの発想の転換がない限り、今までの考え方の延長であれば、施設型の余熱利用形態というのですか、これの導入については非常に難しいのではないかと。今アンケートをとっているところで、いろいろな地域が、いろいろな発想が出てきますので、それを参考に今後いろいろやっていくわけですが、今話を聞いたところでは非常に絶望的な感じになっています。

ただ、いろいろな拡充を図って来られたのですが、あれもこれも、欲張りすぎたきらいがあり、ウォータースライダーはイメージアップのシンボルとして実現、評価されていますが、どのみち施設工事が必ず出てきますので、将来の見通しを

考えれば、選択と集中で何かポイントを決めたほうがよいのではないかと思います。改修費用が今後10年間で5億5千万円かかりますと。それを収支に乗せるのであれば、減価償却で、将来の更新も考えて、それも収支に入れて本来はやっていけないといけないと思います。それ抜きでの収支ですから、いずれ更新工事がどっと出てくると。現にこのまま続けると5億5千万円当然いりますよと。このようになりますので、当初は非常に魅力ある施設として、ウォーターライダーなどを導入し、あれやこれやとやってきていますが、それらが今、負担になってきています。選択と集中で何か魅力のあるものに絞ってやっていかなければしんどいのではないかという、説明を聞いての印象です。

委員 今おっしゃったことと変わりませんが、何か、子どもさんが来たらお母さんもいっしょに来る、そういった関連性、こういうものをつくれば多様な人にも対応できるので、そのようなものが必要ではないかという気がします。お風呂とかいったものもいいのですが、先ほども言ったように周りにたくさんありますので、非常に難しい話になってくるのではないかと思います。何かもう少し変わったことを考えないといけないのではないかと考えています。

委員 特に気になりましたのは、歳出のところで委託費が6割を占めています。これは1事業者で平成17年度からのようですが、業者は交代でやっているのですか。

事務局 施設の開設にあたりましては、入札という形で業者を募り、落札した業者に運営を委託しましたが、引き続きその業者と委託契約を行っています。

会長 それは一度も業者を変更したことがないということですか。

事務局 当初入札の際、10社程度の業者が手を挙げて来られたのですが、やはり撤回しますということで、最終的には2社か3社での入札という形になりました。実際に現地を下見すると、採算が厳しいので撤回させていただきますというような経緯があり、何年かごとに入札ということも検討したようですが、そのような開設当時のことを鑑みますと、入札は厳しいということで、1社に同じような形で運営委託していたという経緯がございます。

委員 ある程度入札をしていただいて、新しい業者にでも運営してもらったらよかったのではないかと思います。委託費の6割といたら大きいと思います。

会長 他にありますか。全体的にはどうですか。

委員 全体的には、やはり厳しい状況だと思っています。

委員 この資料を見せていただき、よくまとめられていてわかりやすかったです。私

も、今後10年で5億円程度かけて同じものをやるというのは、それだけのお金をかける価値はないのではないかと考えています。ですから、今後新しくするのであれば、もう少し広域的に、前にも言ったのですが、全体的にこのあたりの特徴を活かしたまちづくりになるのかわかりませんが、そういったことを考えていかないと、というように思います。

14ページにバスの説明があります。以前、市のほうで利倉まで延伸するルートを実験的に運用されたみたいですが、結局ほとんど利用がなくて、元のルートに戻し、曾根駅からバスはここまで終わっています。これも申し上げたのですが、もっとその施設に人が行きたい、そのためにバスを使いたいという考えがなければ利用者は増えません。私はもっと小さいバスでもいいから、曾根駅から伊丹のダイヤモンドシティまで運んでもらうようなルートができないかと思っています。北回りは豊中からダイヤモンドシティまで行くルートがすでにありますので。

また、今は、ジムで体を鍛えた後に「何か食べたい」とか、「ショッピングをしたい」とか、プラスアルファを必ず求めてきます。高松のうどんなども、かなり遠いエリアからわざわざうどんだけを食べに行くという話をよくニュースで聞きます。それならここはどんなことをすれば来てもらえるのか。前にエリアの説明の中で、どこのエリアから来ているにしても、多いのは結構車で来ている人で、他府県からも多く来られている、という話がありました。そういう人たちは、この20ページの図を見ていただくと、類似施設が伊丹とかにあるのですが、このジムを利用するのにわざわざ車を使ってここまで来られます。ですからそれを考えると、この施設を使われる方もおられますので、もっとトータル的に、このエリアで集客を増やそうという考え方もあります。ただ残念なのは、このあたりで食事をする場所というのが、ダイヤモンドシティまで行かないとありません。ショッピングをするところもそこしかありません。ですので、もっとここを一つのエリアとして考えて、やはりこのエネルギーの重要性を考えて、それを活かしていくということを考えないと、今の施設のままだでは、またこれまでと同じ繰り返しになると思います。

委員

まず、まとめとしての意見ですが、11ページの料金のところで、幼児は無料なので料金が「大人」と「小人」となっていますが、幼児は無料であることを記載する必要があるのではないかと思います。

それから同じような形で、28ページの一人当たりの平均利用単価の計算に関するところですが、参考として大人と小人の単価を出していただいているのですが、小人の計算に小人の13,000人と幼児の12,000人を足して単価を出していますが、これは違うのではないかと思います。つまり、小人の単価を283円と計算していますが、これはお金を取っている小人の人数だけで単価を算出するべきで、そもそも無料の幼児の数を加えると、当然単価は下がると思います。

それから、25ページの表で、「割引利用2割」と「割引利用5割」がよくわからないのですが。地元の方はどちらですか。

事務局 前回もご説明させていただきましたが、地元の方については5割です。

委員 割引利用2割というのは、何ですか。

事務局 割引利用2割というのは、いろいろなサービスや販売促進の一環で随時クーポンを出したりしているのですが、割引付きのチラシを新聞折り込みに入れたりした時期もありまして、それらが2割引という形でした。

委員 わかりました。前回も申しましたように、地元という用途で5割になる方と、例えばクリーンランドの見学に来た人に半額券を渡しているというものを分けて精査することができるのかどうかということところです。この7,972人がどういう傾向なのかによって何かあるのかなど、個人的には思っています。ただ、精査してこれ以上分けられないというのであれば追求のしようがないのですが。クリーンランドの見学で、半額券をもらうのを楽しみにしている親子連れが多く参加するという話を聞いたことがありますので、そういうことを求めて来た人もいるのではないかとずっと思っています。

加えて、32ページの表3-2-1の関連で言いますと、前回、委員の方がご質問していたかと思いますが、継続してプールを運営するのであれば、これだけの経費がかかりますよというのはわかるのですが、今の休館の状態でお金がかかるのか、かからないのかという話の回答をいただいていないので、それがどうなのかが気にかかるところです。

あと、全体のまとめとして一つだけ言いたかったのは、例えば22ページの表2-3-1で見ると、大人が減少しているとの説明がありましたが、小人の減少率は意外と低い。幼児は無料ということもありますが、小人が正規料金を払ってきている割合が高いわけです。こうなると、どんな施設をつくるにしても、大人はいろいろな方法で割引してやっていくわけですが、子どもについては減らなくて、ここで利用するニーズがあって、しかも割引でない方法で来ているわけです。これは実はおもしろいのではないのかと思うので、何かここを活用する方法をより詳細に検討できるのであれば、できることがあるのではないかと思います。ですから単に5割の割引とってよいのかということ。例えば割引券が1枚ありました、大人は600円で来ます、幼児を連れてきたら大人と幼児2人を合わせて600円に入れました、民間施設を使うよりトータルとして安くなりました、だから私はこちらを選ぶのです、という人もいると思います。あるいは、いつも高齢者の方が利用されていて、夏休みだけ孫を連れてきたから、おじいちゃん、おばあちゃんは回数券だけど、孫は正規料金を払ってファミリーで来た、といった動向とか、そういう子どもや幼児の動向として、今後のあり方を考える中で、子どもや幼児が今までそんなに減っていないのは一体なぜなのか、その人たちが何を求めていたのかを少し考えてみるのもいいのではないのかということをおもいました。長くなりましたが以上です。

委員

このお話をお聞きしまして、かなり厳しいなと思ったのが実感です。まとめのところに書いてありますように、例えば健康増進施設として考えるのか、もっと違う面の利用があるのかということなどは、私は健康増進施設として考えていたのですが、資料を見せていただきましたら、そうでもないような利用のところも多く見かけられますので、豊中市と伊丹市との施設として本当に市民の皆様にも魅力的なものでなければ、投資をしてもまた同じことの繰り返しかなと感じました。

委員

私からの意見ですが、内容については一つだけで、あとはこうしたらよいのではないかと、修正されるのであればお願いできたらと思います。

内容に関しては、「はじめに」に書かれている内容と第4章の「まとめ」で書かれている内容が矛盾しているのではないかとこのように率直に感じました。「はじめに」に書かれている内容は「整備しました」とか「休館しました」に分かれています。工事の関係で休館したというようにさらっとした記述になっているのに対して、第4章の「まとめ」は、課題がどうだというような財政の話を含めて詳しく書かれています。ここで「はじめに」と「まとめ」のギャップがあって、一貫性がないのかなと。総括としては「はじめに」のところにもう少しそういった「まとめ」の情報を入れておくべきと思いました。

もう一つは、もし変えるのであれば、こうしたらよいのではないかとこの案ですが、マイナスの影響がいろいろ書かれていますが、プラスの評価ができる点も何かしらあると思いますので、こういうところがよかった、こういういい声が聞かれた、具体的に活動してみてよかったし、今後の活動でも取り入れるべきだというプラスの面についてコメントがほしいなと思います。あと課題のところ、集客ができないとか利便性が悪いとかの話がありましたが、外部要因がとても多くて、自分自身の努力でできることが何かないのかという提言を加えられたよいのではないかと思います。この総括の目的としては、本委員会でも今後のエネルギーの考え方を議論するにあたって、何かしら参考となるような情報を出すというのが一つ目的としてあると思いますので、そういう観点でどういう提言ができるかということと盛り込んでもらえると、委員会にとっても活用ができるのではないかと思います。

委員

いろいろ話を聞かせていただいて、なかなか難しい問題だと思います。私がこの委員の応募で簡単な論文を書いた時、一つ、植物工場という施設をつくったらおもしろいのではないのかなということを書きました。今、阪神電鉄の高架下に植物工場をつくったりしています。クリーンランドの余熱利用の場合、デメリットはいろいろ議論されていますが、メリットとしては、やはりエネルギーです。蒸気をただで生むということと、これに加えて電気もただで生むということです。そういった意味で施設面で経費がゼロになります。今の余熱利用施設は4階建てですが、その4階を植物工場に変えると、初期投資はいりますが、軌道に乗った場合回収できる部分が出てくるし、それに合わせて自然志向のものを取り入れたい

ろいろな施設が考えられるのではないかと思います。これは一つの例ですが、発想といたしますか、そういったものも今後考えていかなければと思います。前に再生利用の施設を見せていただきましたが、余熱利用施設はあまり入ったことがないので、それを見に行く必要があるのかなと思います。今後、維持だけでも5億円かかるということなので、実際そのようなことが必要なかどうか、私も見てみたいなと思いました。

委員 資料を見せていただいた感想ですが、気になったのは25ページの回数券のところで、110枚綴りとか230枚綴りとか多い枚数の券の設定があり、これは2人とか3人しか購入されていないみたいですが、こんな回数券をどうして作られたのかなというところと、10ページで「ウォータースライダーが平成25年8月に老朽化に伴い撤去」とありますが、これは再開されるのかの疑問があるのと、マイナスになっているところはしないといけないと思いましたが、巡回バスのところで年間1千万円の経費が必要となっていますが、この1千万円というのはどういう内訳なのかなというのが気になったところです。以上です。

会長 今のは質問ですね。回答できる部分があれば。
一つ目、回数券については少ない回数券があったらよいのではないかというご意見でいいと思います。二つ目のウォータースライダーを撤去したというのは、老朽化に伴って安全を確保するために行ったと、閉鎖するための撤去ではないと私は聞いています。三つ目の1千万円の根拠は、これは次回にお示しいただくということでしょうか。

事務局 はい。

会長 先ほどご意見がありましたように、おそらく1千万円というのは、自前でバスを運用した場合のことだと思います。他にいろいろなやり方があると思いますが、わかりやすくするために自主運用の場合として説明したものだと思います。それが少しわかるようにしていただければよいのではないかと思います。
施設全体に関するご感想はどうですか。

委員 私も委員応募時に書いた小論文で、余熱の利用ということでちょっと思い浮かんだのが、熱を利用した熱帯植物とか栽培とか、農業の利用のようなこととか、あと漁業で、熱を利用するような魚とかを養殖などできればいいのかなと思いました。マイナス面として初期投資にどれだけかかるのかということが気になりましたが、そういったものがあつたらいいなと思いました。

会長 ありがとうございます。他にご意見がなければ、審議の(2)を終わりにしたいと思います。いかがでしょうか。
まず、皆様から質問やご指摘いただいたものを資料に反映させていくこと、ま

たご意見いただいたものにつきましては、今後、答申内容に盛り込めるようにしたいと考えています。この内容につきましては、次年度の答申内容の審議の時に改めて議論いただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは事務局から案内がございます。

事務局

事務局から連絡させていただきます。

次回、第4回策定委員会の日程ですが、当初のスケジュールでは2月を開催予定としておりましたが、豊中市伊丹市クリーンランド議会の日程との関係から、2月下旬ないし3月初めの開催とさせていただけたらと考えております。本日、日程調整表を用意していますので、このあとお渡しさせていただきます。よろしくお願いいたします。お忙しいところ恐縮ですが、できましたら年内にお送りいただけますとありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

会長

第3回は以上とさせていただきたいと思います。活発なご意見をいただきまして、どうもありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。